

# ビニール袋分別・洗浄機開発

カネミヤ

## 容器包装リサイクルを推進

【名古屋】自動包装分別機などの開発・設計製造を行うカネミヤ

（本社）愛知県半田市八軒町128、岡瀬隆夫社長）は、ビニール袋自動分別洗浄処理機（BunSen、特許出願中2件）を開発した。これまで産業廃棄物として扱っていた汚れたビニール袋を短時間、少量の洗浄水により、分別・洗浄・脱水する画期的装置で、空き缶などを合わせた容器包装のリサイクルにおいてネックとなっていたビニール袋処理を高能率、低コストで解消できる。販売は日青鋼業グループのアルニッセイ（本社）静岡県浜松市、福井資社長）とクレス名古屋（本社）名古屋市中種区、竹内久祥社長）が当たる。販売価格は550万円（処理能力約400kg/時間タイプ、本体のみ）。

同社は、1989年設立のベンチャー企業。資本金2500万円（名古屋市中小企業投資育成会社40%出資）。電子機器や工作機械関連部品の板金加工を主力としてきたが、数年前から自社ブランド製品の開発に注力している。中でも包装食品廃棄物の減容と再資源化に高い効果を発揮する自動分別処理機（BunBun、特許申請中）は、コンビニ

弁当やナフタリン袋、乾燥剤、鉛袋などの分別処理装置として約40社に採用され、高い評価を得ている。2000年には品質ISOを認証取得。本社のほか関東営業所（神奈川県秦野市）を持つ。

今回販売するBunSenは、包装分別機のノウハウを生かし開発したもので、産業廃棄物として処理する以外になかった汚れたビニール袋の再資源化を実現する。このため従来、大きな課題となっていた缶、ビンなどの容器包装物を搬送する際に使うビニール袋のリサイクルが可能になる。

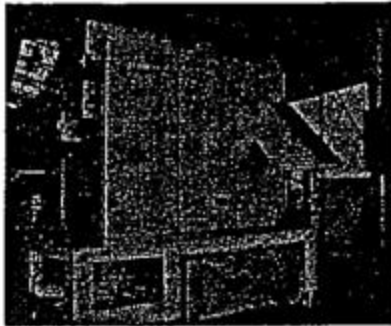
その原理は独自開発した高速回転による遠心分離と摩擦を利用することで、1台の装置により少量の洗浄水により、高速洗浄・脱水が可能にした。洗浄水の使用量は時間当たり約20リットル。ビニール袋に交じった細かなガラス片やプルトップなども分別できる。装置の大きさは時間当たり処理能力約400kgタイプが、幅1736×奥行1425×高さ1503mm、重量500kg。電源は200V。

洗浄水が少量で済み、構造がシンプルなため故障しにくく、簡単なメンテナンスで操業できるマシンとして既存製品と比較して飛躍的な高性能を発揮でき、しかもコストパフォーマンスに優れる。

全てステンレス製で耐食性があり、掃除も簡単にでき、衛生的。このほど行った商品説明会では、参加した産廃処理関連企業から処理性能に対して驚きの声が多く聞かれ、また関連業界から多数引き合いが寄せられている。

販売に当たっては、

日青鋼業と共に全容器包装物の有価物リサイクルシステムの構築に取り組みアルニッセイと、各種容器のリサイクル事業を手掛ける面月間5台で、来年から10台に引き上げる計画。



「BunSen」

たっては、